

2.6.1 研究分野：農業組織経営学

構成員：	教授	新山 陽子
	准教授	辻村 英之
	助教	田口 標
	大学院博士後期課程	9 名
	大学院修士課程	7 名
	専攻 4 回生	6 名
	博士研究員 (PD)	1 名

A. 研究活動 (2009.4～2010.3)

A-1. 研究概要

a) 研究方法

当分野では、農業経営や食品企業、農業食料組織を社会的存在としてとらえ、それらがかかえる問題を明らかにするとともに、社会経済環境に対応し、内部構造を変化させ変貌して行くメカニズムとその方向性を解明することを課題としている。

これまでの経営学の上に、人間の情報処理能力をとらえる認知科学や、人間や倫理を考える経済学、新しい制度派経済学やコンヴェンション経済学などの社会的な調整システムを重視する経済学を吸収しながら、理論枠組みの検討を進めたいと考えている。

b) 市場と農業経営

世界の農業が自由市場原理の下におかれているが、果たして農業経営は完全な自由市場原理の下で存続できるであろうか。そもそも自由市場は、自然的・社会的条件に制約される世界の国々の農業生産を望ましい形に布置することができるか。農業生産の単位経済である農業経営は、生き物と同じで、生存環境が悪化すると自己努力だけでは生き延びることができない。市場は農業経営の生存環境であり、調整された制度に立脚することが必要である。そのあり方は、それぞれの国において農業と農業経営が果たす役割に対する社会的な価値判断にたって、考えることが望まれる。アメリカや欧州、北東アジア、アフリカなどと比較しながら実情を検討している。

c) アグリビジネスと地域農業組織

農業には超国籍コングロマリット企業から伝統的な家族経営まで多様な事業体がありまる。また、食品製造や販売、外食など関連分野へ事業多角化が進んでいる。そ

それぞれの構造と行動、その存在の社会的な意義と食品供給や地域社会に与える影響を明らかにする必要がある。他方、農業経営が存続するにはそれを支える地域組織が必要であり、地域農業システムや産地体制についての研究を蓄積している。

d) 人と経営

経営は人によって創られ動かされるものである。農業経営、食品事業経営について、経営理念、経営の哲学や思想、経営者職能、そして経営を動かすためにつくっている経営管理システムがどのような経営を生み出すか、また、経営の発展が社会に与える影響、経営の社会的責任・倫理、経営が創り出す文化についても解明していきたい。

e) 将来世代の食への責任とフードシステム、食品安全システム

今、食品安全や環境問題に加えて、食品価格設定をめぐる小売事業者と農業者、食品製造者の軋轢が拡大し、フードシステムの存続が揺れている。良好な状態を取り戻せるかどうかは、フードシステム関係者が共同して対応し、共に存続する道を探ることができるかどうかにかかっている。事業者や消費者のリスクや価格の認知と行動をとらえ直し、垂直的関係の焦点となる価格、品質、安全、トレーサビリティを巡る調整について、欧州や北米、アジア、アフリカなど世界各国を比較しながら検討を進めている。

f) 分野スタッフの個別研究

新山陽子：①フードシステムに関する理論的研究、②食品安全確保のための社会システムに関する研究、③食品由来リスク認知の国際比較研究、④消費者の価格判断に関する研究、⑤食品事業者の社会的責任に関する研究、⑥食品トレーサビリティに関する研究、⑦牛肉のフードシステムに関する日米欧比較研究、⑧農業経営の企業形態と経営管理に関する研究

辻村英之：①途上国産農産物（特にコーヒー）を事例としたフードシステム・アグリビジネス研究、②アフリカにおける農村協同組合の役割・育成に関する研究、③タンザニア農村における貧困問題と農家経済経営に関する研究、④生産地（途上国）における農産物のフェア・トレードの役割と消費地（先進国）におけるその発展に関する研究

田口標：①オーストリア山岳地域における環境保全型農林業複合経営に関する研究、②オーストリアの農山村におけるツーリズムに関する研究、③京都近郊山村の近世史に関する研究

A-2. 研究業績（国内・国外含む）

a) 成果刊行

著 書

・金澤一郎・祖田修・上野民夫・佐藤文彦・森口文雄・新山陽子・唐木英明『食の安全を求めて―食の安全と科学』学術会議叢書 16、(財)日本学術協力財団、2010 年 1 月、98-120 頁、「科学を基礎にした食品安全行政とレギュラトリサイエンス」

・辻村英之『おいしいコーヒーの経済論―「キリマンジャロ」の苦い現実―』太田出版、2009 年、1-209 頁。

原著論文（査読付）

・新山陽子「食品事業者とステークホルダーとの関係はどうつくられるか―社会的責任と経済条件―」『農業と経済』第 75 巻第 11 号、2009 年 9 月、45-54 頁

・新山陽子「食品安全問題対策における北東アジアの連携の可能性」『農業と経済』第 76 巻第 3 号、2010 年 3 月、65-77 頁

・辻村英之・藤原和幸「タンザニアにおける農業政策の変遷と食料安全保障 ―構造調整政策から貧困削減戦略まで―」『農業と経済』第 75 巻第 6 号、2009 年 6 月、92-98 頁。

総説

・新山陽子「食の安全、信頼とフードシステム」（132-148 頁）、河合・稲本編著『アグリビジネスの新たな展開』（財）放送大学教育振興会、2010 年 3 月

・新山陽子・清原昭子「食品産業の展開と農業」（99-115 頁）、河合・稲本編著『アグリビジネスの新たな展開』（財）放送大学教育振興会、2010 年 3 月

・新山陽子「2009 年度日本農業経営学会大会会長挨拶」『農業経営研究』2010 年 3 月

・辻村英之「焙煎業者・生産者にとっての有機コーヒーの位置―環境・社会面の倫理観をめぐって―」『農業と経済』第 75 巻第 3 号、2009 年 4 月、26-28 頁。

・辻村英之「コーヒーの価格形成とフェア・トレード―「キリマンジャロ」を事例として―」『民主主義教育 21』vol. 3、2009 年 6 月、125-135 頁。

・辻村英之「消えた「モカ」コーヒーと原産地との関係性」『農村と都市をむすぶ』No. 696、2009 年 10 月、40-43 頁。

・田口標・松下幸司・宇野日出生：「京都大原の山林文書（三）御入木山における山林売買を中心として」『生物資源経済研究』第 15 号、2010 年 3 月、94-126 頁

報告書等

・新山陽子研究代表、平成 19～21 年度科学研究費補助金（基盤 A）助成研究報告書『科学を基礎とした食品安全行政/リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立』（最終報告書）2010 年 3 月

・辻村英之「倫理的調達にみる農業者・食品企業・消費者組織の倫理観・理念の結合・分断―「フェア・トレード」コーヒーを事例として―」新山陽子（研究代表者）『科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立 科学研究費補助金（基盤研究(A)） 最終報告書』2010年3月、187-205頁。

b) 学会発表

- ・日本農業経済学会 新山 3本
- ・The Society for Risk Analysis 新山 1本

A-3. 国内における学会活動など

所属学会等（役割）

- ・新山陽子：日本農業経営学会（会長）
- ・辻村英之：日本アフリカ学会（編集委員）

学術会議関連（役割）

- ・新山陽子：日本学術会議連携会員（食の安全分科会委員長、農業経済学分科会副委員長）

競争的資金等獲得状況

①科学研究費補助金

- ・基盤（A）：新山陽子：科学を基礎とした食品安全行政／リスクアナリシスと専門職業、職業倫理の確立
- ・基盤（C）：辻村英之：キリマンジャロの農家経済経営と農村発展：フェアトレードの役割

A-4. 国際交流・海外活動

国際共同研究・海外学術調査等

- ・新山陽子：スペイン、フランスの食品安全行政調査
- ・辻村英之：「キリマンジャロの農家経済経営と農村発展（タンザニア調査）」

B. 教育活動（2009.4～2010.3）

B-1. 学内活動

a) 開講授業科目（担当教員）

- ・ 全学共通科目： 偏見・差別・人権（新山）
- ・ 学部： 食料・環境経済学概論Ⅱ（新山）、調査研究方法実習Ⅰ、Ⅱ（新山・辻村・田口）、農業組織経営学（新山）、農企業問題特論（新山・辻村）、アグリビジネス論（辻村）、国際農林業概論（辻村）、地域農業・農業経営管理特論（新山・辻村）、農業組織経営学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（新山・辻村・田口）、食品安全学Ⅱ（新山）、食農倫理学（新山・辻村）
- ・ 大学院： 農業組織経営学Ⅰ、Ⅱ（新山）、アグリビジネス分析論（辻村）、農業組織経営学専攻演習Ⅰ、Ⅱ（新山・辻村・田口）、比較農業経営論（新山・辻村・田口）

B-2. 学外における教育活動

学外非常勤講師

- ・ 辻村英之：金沢大学教養教育機構（飲料の世界）

公開講座等

- ・ 新山陽子：京都大学公開講座・食品トレーサビリティ講習会、開催責任者・講師
- ・ 新山陽子：食品トレーサビリティ公開講座、東京大学 大学院情報学環 ユビキタス情報社会基盤研究センター、共同開催責任者・講師
- ・ 辻村英之：金沢大学特別公開講座・コーヒー学入門（講師）

B-3. 国際的教育活動

留学生・外国人研修員の受入

- ・ 留学生： 研究生等 1名（中国）

海外での講義・講演

- ・ 新山陽子

A Study on the Structure of Public Perception of Food-related Risks in Japan and France-an progress report-(講演者):INRA・Montpellier(フランス)

C. その他

- ・ 新山陽子：葉たばこ審議会委員、京都府家畜改良増殖審議会委員、兵庫県農政審議会委員、兵庫県食の安全安心と食育審議会委員、京都市中央卸売市場第二市場運営協議会会長、京都府農業会議専門員、中日農業賞審査委員